



# サポート通信



## 活動成果発表会を開催

### 14グループが1年間の活動を報告

第11回千代田まちづくりサポート活動成果発表会が、3月6日(土)、ちよだプラットフォームスクウェア5階会議室で開催されました。助成を受けた、トライアル部門1グループ、一般部門13グループから、1年間に千代田区内で展開した活動内容について、報告がありました。個性ある活動と着実な成果に対して、会場から大きな拍手が贈られました。



## CONTENTS

### 活動成果発表

#### [トライアル部門]

- 半蔵門駅通り花の会 2

#### [一般部門]

##### (1回目)

- 自然育児を楽しむ会 2
- 結びの会 3
- 日本の農業に一生を賭ける!  
学生委員会(SOLA) 3
- 神保町Art-Live-Rally実行委員会 4
- EAST WIND 千代田 4
- かんだもん 5
- 神田人 5

##### (2回目)

- 神田探偵団 6
- NPO法人WEL'S新木場 6
- NPO法人ちきゅう市民クラブ 7

##### (3回目)

- NPO法人地図文化研究会 7
- C-bridge 8
- 食育。街行く研究会 8

- 審査会委員講評・総評 9
- ニュース 11
- 審査会委員・賛助会員一覧 12

## 審査会委員 (敬称略)

### 会長 鈴木 伸治

(横浜市立大学国際総合科学部准教授・工学博士)

### 副会長 早田 宰

(早稲田大学社会科学総合学術院教授・工学博士)

### 委員 田熊 清徳

(神田技芸祭実行委員長)

### 谷 真理子

(千代田区青少年委員)

### 中嶋 利隆

(大手町丸の内有楽町地区再開発計画推進協議会 事務局長)

### 新田 英理子

(特定非営利活動法人日本NPOセンター企画主任)

### 浅古 清

(千代田区政策経営部特命担当部長)

1

半蔵門駅通りの美化活動  
(半蔵門駅通り花の会)



半蔵門駅通りの美化、放置自転車対策として街路樹の下に四季折々の花を植え、水やりや雑草取りなどの植えた後の手入れを通して、地域住民のコミュニケーションを図り、健全なコミュニティの育成を目指した。

Q: 継続的に活動を進めていくために、考えていることは何か。  
A: 関心のある人を巻き込みたい。ただ人を増やし過ぎると、人間関係が壊れがちとなるので、活動が負担とならないように、なるべくゆるく行うことが肝心と考えている。

Q: 町会に環境部がある。トライアル部門としては評価できるが、この活動だと町会レベルである。一般部門として助成を受けるためには、内容の肉付けが必要であることを承知して欲しい。

Q: 周辺大学などのクラブとの連携などは考えているか。  
A: 検討したい。



一般部門 助成1回目

2

子育てする家族が、暮らしやすい千代田へ～食育と自然育児  
(自然育児を楽しむ会)

千代田区を子育て夫婦にとって、より住みやすい町にするため、育児情報や交流の場を提供することが目的。食



育・親子のコミュニケーション、自然とのふれあいをテーマに活動している。自然食、食事療法の紹介、ベビーマッサージ、スクラップブックングなどの紹介や講習の

実施、自然で遊ぶ集いの開催、自然育児の情報提供、農業体験を通して自然育児の啓蒙活動を行った。

Q: 講習会やら現場見学をして、色々勉強したようだが、千代田区へどのように還元するのか。  
A: 色々な情報を発信したり、オープンな講習会を増やしたい。  
Q: 個人的な活動をしているのではないかと、審査会では注意している。子育てサークルの支援がまちづくりと

してどうなのか、来年も応募する場合は、まちづくりとして何が出来るのか、真剣に取り組まないと助成対象になるのはかなり難しいことを承知して欲しい。ホームページを作成



したようだが、情報を発信すればまちづくりになっているということではないことを理解して欲しい。

Q: 町会に福祉部があるところもある。そのようなところとも連携し、地域に根ざし、根を生やす活動もされてはどうか。  
A: 町会には福祉費として年間6万円支給されているようだ、それがどのように使われているのか調べたい。

## 3

心のまちづくり・昔と今の、人とまちを結びあう  
(結びの会)

街づくりは人づくりだという理念で、「今の人と人」及び「世代と世代」の心をつなぐことをもって目的としている。今日の地域社会では、向こう三軒両隣りという固定的地域は都市生活の進展により分断され、また、多くの勤労者は都心の街で大半の時間を消費しており、地域の姿が



流動型に変容している。千代田区を含む都心部の特性は、商住労働混在で、多くの昼間人口と生活時間を擁する点にあるが、その実像はすれ違うだけの人情

味が欠ける姿になっている。月一回の交流会や「半蔵門通信」を発行した。これらでは、高齢者の記憶を掘り起こし、街への関心と対話の機会拡大を深めた。

Q: スポンサーづくりを課題とされているが。

A: 活動を継続させるためにはスポンサーが必要であるが、なかなかうまく付かない。町会から5千円の活動費を頂くようになった。

Q: お年寄りの方が多いが、大学生など若い方との関係づくりは考えているか。

A: 若い人に声をかけるきっかけがない、といった悩みがある。若い人との関係作りは是非必要と考えている。

Q: 集客人数をどのように考えているか。人数によっては、広報する媒体も異なるのではないかと。

A: 参加した人同士がコミュニケーションを取るようにすることが良い。いっぱい来てもらいたいと思っている。

Q: 教科書に載っていない歴史を多く話していると思う。うずもれた歴史は観光資源にもなると思う。観光協会とは何かしているか。

A: 観光協会のホームページへ「記憶の再生」を掲載している。1回/週の頻度で情報を掲載している。

Q: 生きている時代の歴史が失われている。まちの記憶が失われている。自分達が生きてきた様子を語ることは大切なことである。

A: 今現在の状態を記憶に残すことが大切。今生きている人は、今を大したことはないと思っているが、後世の人にはとても重要であることがある。



## 4

江戸風土システム  
(日本の農業に一生を賭ける! 学生委員会(SOLA))

活動の目的は、都心に住む子供たちを対象に「一貫した食農体験」に取り組んでもらうことで、食や農の魅力を感じて

伝え、子どもの心の成長を促すとともに、いのちのつながりの尊さ、地域の人と人とのつながりを生み出すこと。農産物を育てることや調理する体験にこそ、まちづくり、ひとづくりのために様々なつながりを生み出すきっかけがあると考えた。活動は、廃校になった神田の旧今川中の花壇、校庭に設置したプランター、調理室を使って、種まきから水やり、成長過程の観察、収穫、そして調理と、口に入るまでの「一貫した食農体験」を行った。

Q: 悩んだことが3つ(町会との関係、旧今川中調理室利用許可、千代田区農家とのつながり)あったようだが、取り組みに対するアプローチが全て甘い。学生なのだからもっと頑張りたい。もっと良いコンテンツを作って、活動してもらいたい。期待している。

Q: 地元のキーパーソンをうまく使って活動してもらいたい。





## 5

## 街と若者が共創するコミュニケーション型アート～神保町コミュニティの再構築を目指して（神保町Art-Live-Rally実行委員会）

アートを通じて街と若者の新しいコミュニケーション環境を創造すること。具体的にはカフェアート、フリーペーパー、ライブアクト、ブックカバーコンテストの4つのイベントを通して多くの人々に神保町の魅力を再発見してもらい、それぞれの街の楽しみ方を見つけるきっかけづくりを目指した。イベントは12月3日から13日までの期間に行われた。多くの注目を集めながら終幕した。

Q：活動が大学内で終わっているため、外から見えていない。地元一般の方から活動が見えるようにして欲しい。

Q：若者の神保町訪問回数（現状0.5回/週→目標2回/週）はどうなったか。

A：調査をしていない。ゴメンナサイ。感覚としては増えたような気がする

Q：手さぐり状態で始まったと思う。改善点をどのように引き継ぐのか



A：改善点を冊子にまとめ、次の学年に引き継ぐ。次の学年がどう引き継ぐかは、次回の応募で判断して欲しい。

Q：次回のイベント内容は、今回の内容から全部変わることもあるのか。



A：次回イベントをどのように企画するかは、次の学年の判断に任せているので、全部変わることもある。

Q：審査会では、大学のゼミ活動に助成することはいかなものかとの意見もあったが、まちなかへ出て活動を展開する姿勢を見込んで助成対象とした経緯がある。お店の人とのつながりはどのようになっているのか。

Q：イベントを上手に続けるには、終了後のお礼報告は大事である。成果を取りまとめ、翌年へつなげることをやっているか。

A：次年度の活動は既に始まっており、企画も練っている段階で、助成が無くても実施できるような検討もしている。関係個所へは、後任者の紹介も済ませた。

Q：まちの人達と係わらなければうまくできないと実感していると思うが、次年度はまちの人々もメンバーに入れて応募して欲しい。

## 6

## 千代田区の山手線東側地区を広く知っていただき、活気溢れる街にする（EASTWIND千代田）

秋葉原駅と神田駅を結ぶ山手線を境として、西側と東側エリアとでは街の活気が全く異なっている。特に再開発された中央卸売市場、神田市場跡地には、ダイビル、UDX



（クロスフィールド）ビルが建ち並び電気街との相乗効果で人があふれている。それに比べ山手線の東側、特に昭和通り

を超えたエリアは閑散としている。そこで、この東地区の名所、旧跡、飲食店、さらに人物他にスポットを当て、広く知っていただくことを主眼に活動した。

Q：一つのアイデアとして、公園のヒマラヤ杉をツリーに見立てることも検討されているようだが、大切なのは、ど

のように仕掛けるのか、テーマをどのようにするのか、いかに人を呼び込むことを考えるかである。ツリーを作っただけでは人は来ない。

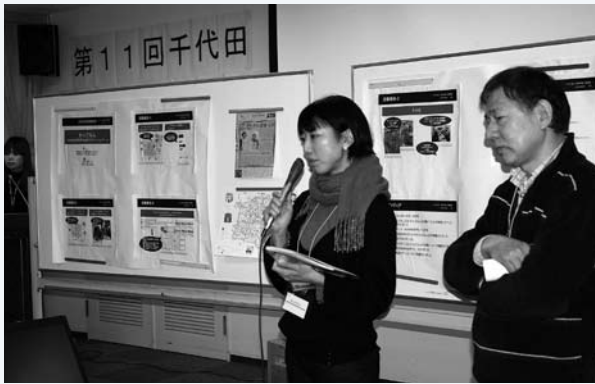
Q：NPO法人になることによる可能性を見出しているようだが、法人化することによる事務作業量の増大といったデメリットも多くあるので、ボランティア的な活動として続けるのも選択肢の一つであると思う。



## 7

神田の魅力を「顧客目線」で世に広める！  
〔かんだもん〕

目的は、「神田駅周辺エリア」の魅力を社会的にプロモーションし、神田をより多くの人にもっと知り・来て・楽しんでもらうこと。神田駅は秋葉原・東京から一駅、日本橋や大手町から徒歩5分以内という好立地にありながら、周辺には安く美味しい飲食店、昔ながらの街並みや老舗といった歴史を体感できる貴重な場所など、観光資源に富むエリアである。また江戸時代からの本物の下町としての歴史を持っているにもかかわらず、下町としての知名度が劣っている。そのような神田駅周辺エリアの魅力をみなさんにもっと知ってもらいたく、世に発信するとともに、江戸古町としての神田の認識を世に広めるべく活動を行っている。



Q: 作成した「乙女のかんだマップ」「神田食べ飲み歩きご案内帳」は別ものようだが、今後は、これらをシリーズ化するのか。

A: マップごとにテーマを持ち、切り口を変えて作成したい。

Q: 作成したマップはどのように配るのか

A: ホテルや観光案内所。実は、マップを作成して、置くところを考えるのが一番の問題である。如何に人に伝えるかが一番肝心なことである。是非マップを置かせてもらえる場所を紹介して欲しい。

## 8

千代田の人の輪を広げよう  
〔神田人〕

神田で居住している人々に、住みよく、楽しく、学べる街であることを、より実感してもらえよう、まちの情報を出来るだけ発信し、人々の交流の場をより多く提供している。高齢者の人口比率が高いことも配慮し、特に一人住まいの高齢者が、活動の場を得ることが出来るように情報提供していく。居住している人だけでなく通勤、通学で神田を利用する人々にも、魅力ある街として、情報宣伝活動を行っている。子



供から高齢者まで、年齢や性別を意識せずに相互理解を育てるコミュニティ作りに励み、神田のまちの活性化を担えるように活動した。

Q: 高齢者との対話、何を共有するかが課題とあるが、どのように対応するのか。

A: まちづくりに貢献できるほどの大勢の人が集まっていない。お年寄りに絞った集客は中々難しい。お年寄りだと意識させずに、参加しやすいような仕掛けを考えたい。

Q: 各サークルの動員数を増やすようだが、情報発信力が大事であり、出来たブログを活用し、充実させるのも手ではないかと思う。神田人に認定されたサークルは活動し易くなるといった仕組みができると良いのでは。



9

歩いて感じた「神田」の魅力を本にしよう  
（神田探偵団）



神田という町が持つ文化、歴史、魅力を、これまでの「町歩き」の実績経験に新たな「町歩き」の実践を加えることによって再

認識・再確認した。まずは、参加して頂いた町歩き同行の皆さんに町歩きの楽しさを実感していただいた。その楽しい雰囲気「町歩き」の写真をふんだんに使用した「町歩き」出版物を刊行することで、神田の情報を発信することが目的である。情報発信としての「町歩き」本を手にした読者の皆さんが、神田のまちを訪れ、このまちに興味を持ち、まちを好きになっていただくことが最終目的である。

Q: 今後も継続して活動したいとのことだが、次なる活動はどのように考えているのか。

A: 掲載できなかったエリア、神保町や西神田方面などを取り上げることも考えている。



Q: 前回の活動で作ったパネルも、

まちの色々なイベントで活用され、役に立っている。今回のものも大変役に立つものであるように思う。

Q: これまで活動してまとめた成果について、助成金を使って本にする。助成金の使い方のお手本のような。他のグループも活動の参考になると思う。

10

地域連携による障害のある人の社会参加活動ときれいなまちづくり  
（NPO法人WEL'S新木場）

障害のある人の就労支援活動が「まちづくり」活動の中でどのように展開できるかの可能性を探るために、本サポート事業を活用し、千代田区内の施設の緑地管理を通じて、障害のある人が就労のために必要な心構えや技術を学ぶことのできる機会を提供することを目的に活動している。昨年度からの課題として、活動を継続的に行うための「事業化」が難しいという問題があり、本年度は地域連携をテーマに企業や住民を巻き込んでこの活動を支えていく仕組み作りを検討していくことから始めた。屋上菜園で地域の障害のある人が管理・収穫作業を行ったハーブを活用し、地域連携で化粧水の製造・販売を行い、利益を基金として積み立てし、地域の障害のある人の作業工賃や屋上管理の維持費に充てられる仕組み作りを行った。



Q: 屋上緑化や清掃活動をとおして地域の人とつながりを持つことが評価され、助成対象となったが、そのような報告がなかった。仕組みとして、地域とのつながりを持つことが出来るようになったのか。



A: 清掃活動はボランティアであり、仕事としてのニーズがなかった。ニーズは緑地管理にあると想定し、緑地管理の技術を身につけるようにしたい。企業の屋上に植物を植えてもらい、この緑地管理を障害者が行うことを考えている。

Q: まちづくりサポートは千代田のまちづくりに貢献するプログラムに対して助成を行うものである。コミュニティビジネスやソーシャルビジネスの分野で様々な助成金があるが、そちらを活用されてはどうか。

A: 他の区では緑地管理等に関係する施設があるが千代田区にはないので、この助成を活用した。あくまでも千代田にある会社を想定して活動している。



異文化理解ワークショップやエデュテイメント、様々な活動を通じて、まちの活性化に有益な人材育成を目的として



ている。まちは、どれほど多くの方々が様々な価値、情報、財をもって集い、受け入れ、交流するにかかっています。新しい情報、文化、価値、人への受容度が高い人材がいるまちは、豊かな交流を通して発展すると考えます。この活動に参加したこともたちが、新しい情報などを容易に受け入れられる受容度の高い人材に育ち、まちを構成し、まちを更に活性化するリーダーとして活躍することを期待している。

Q：今後の活動の発展については、どのようになるのか。昨年からの改善点は何かあったのか。

A：訪問学校数を増やしたい。活動内容を知ってもらうことが

大事である。関係者が集まるような機会を利用して、説明したい。千代田区の中に入り込むために、PRの仕方を工夫したい。町会のような組織に深く入り込みたい。

Q：来年は3年目になる、収入が助成金だけであるが、活動を継続する場合、来年もできるのかなと思うが、いかがか。

A：課題であると考えている。教員組織やPTAなどへ活動を知ってもらい、スポンサーを募りたい。

Q：審査会の時に、他のNPO(コドモワカモノまちing)と連携するということがあったので評価した。町会や地域に根ざした活動が出来ると期待していたが、どうなったのか。

A：日程が合わず、実現しなかった。

Q：打合せはしたとのことだが、何をやるとしたのか説明が欲しかった。これに代わるものを何かやるのか。

A：これから活動予定のものがある。



### 一般部門 助成3回目



地図は“見る”ものではなく“読む”ものである。私たちグループは、今回の活動で、千代田のより良い“まちづくり”を目指すうえで

で、この三年間に現地踏査・収集・ヒアリングした情報を地図に加え、地図を“読み・分析する”ことにより、今まで気づかなかった点・不足している点を明らかにし、今後の“まちづくり”に反映させたいというのが活動の原点でした。“まちづくり”を考える上で地図は欠かせないツールです。しかし、現代はインターネット・ナビゲーションの一般普及により、情報を集めることも容易で、地図は“見る”だけのものとなってきている。地図を読めない人・地図を持たない人は、必ず遭難すると考えている。頭の中に地図を置き、地図を“読みこなす”ことの重要性を是非とも皆様に知って欲しい。今回は三か年目の集大成であり、対象地域もムリを押し「千代田区全域」に拡大することにした。『子どもから年

配の方々までもが楽しみながら健康になり、かつ、地域の人々の繋がりにも通じる“千代田のまちづくり”に必要なものは何であるか』をテーマとし、未来地図を作製した。

Q：今後どのように展開するのか

A：他の活動団体、区民のサポート役でありたい。

Q：作成した地図はどのように知らせるのか

A：ホームページへ公開したいので、活用してもらいたい。

Q：未だ、ホームページにも公開されていないようだ。これがまちづくりに、どのようにつながっていくのか想像できないが、うまくつながっていけばいいと思う。



千代田区景観まちづくり審議会では、平成18年「景観まちづくり重要物件(橋梁)選定検討会」を設けて区内の橋梁20橋を選定した。助成活動では、橋梁の選定のみで終わらずに、千代田区の「景観まちづくり重要物件」



としての中小橋梁や建物を観光資源として活用する方法やまちづくりの中での具体的な活かし方をアン

ケートや現地調査によって明らかにしていくとともに、まちの景観の中で見過ごされがちな千代田区内の橋の見方や楽しみ方について、公開講座やブリッジウォーク(地上や船上から橋を見学する)を通じて区民に提起し、「景観まちづくり重要物件」として千代田の中小橋梁の保存と活用を目的として活動した。

Q: 千代田の観光にどのように結びつけていくのか想像できない。今後どのように活動していくのか。観光協会への働きかけはしたのか。

A: 来年度以降調整したい。

Q: 他のグループとも連携していない。他の同様なツアーの内容も調べていない、勉強していないようだ。三年間やって料金設定もされていないようなので、活動を継続できるのか心配だが、頑張りたい。

Q: 橋に興味が無い人を誘い出し、興味を持たせることも必要だと思う。参加させて楽しませるアトラクションも考えてみてはどうか。



千代田区食育活動において地域の飲食店が果たす役割はとても重要である。地元の小学生、PTAに「食」に関する興味をもってもらい、なおかつ本物の技、伝統の味、地域の歴史にふれる機会をつくることである。活動を通じて、教える側の整備と教えてもらいたい側の団体をつ



なげる活動ができた。

食育とは何なのか、誰も明確に答えられない。栄養なのか、調理なのか、学校給食なのか、

家庭の味なのか、何もわからない。千代田区内には素晴らしい技術を持った調理師、有名な老舗伝統の味があります。それらを子供達中心に多く知らせることができたのが最大の意義であった。

Q: 今後の活動はどのように行うのか

A: 行政に働きかけ、タイアップしてやっていきたい。サポートするような役割を担い、他のグループの強み弱みを補完し、一緒に行事を計画することなどが出来れば良い。

Q: 学習館のフレンチ、カレーのイベントを見ても、行政への働きかけも除々にわかってもらってきたように思う。

A: 道筋が出来てきたように思っている。





### 【浅古委員】

今回、発表を聞いて「まちづくり」とは何だろうと改めて考えさせられました。千代田区ではハードのまちづくりはできないが、そうした場合「ソフトのまちづくり」とは何だろうと考えると、地域のコミュニティの活性化、地域を元気にすることが「まちづくり」ではないのかと考えます。

みなさん、目的とするところがあるわけですが、地域を元気にしようとして活動されていると思います。4月に入ると、次年度が始まります。これから活動するに当たっては、さらに地域を元気にしてやろうと思って活動してください。



### 【中嶋委員】

今回の発表を聞いて非常に良かったと思いました。やってきたことについて、大きな成果を収めたグループ、残念ながら評価を得られなかったグループもありました。みなさんは1年間をとおして活動を極め、達成感があったのではないかと思います。改めてまちづくりは人がつくっていくものだと思います。活動がまちを面白くしていくことを実感しました。継続して活動する人、新しいテーマを見つけて活動される人が、またこの場に来て、まちを元気にしてくれると良いなと思いました。



### 【谷委員】

みなさん、発表お疲れさまです。以前は参加者でありましたが、今回は審査員の立場でいますが、皆さんの発表を聞いて、すごいなと思いました。人はどこかにゴールを見出さないとそこまでやらないことがあり、そういう意味で期限は大事であります。期限までに、皆さんがちゃんと仕事をしているのは素晴らしいことだなと思いました。今後も、各ステップごとに期限を切ってもらってもっと素晴らしいものが出てくるのではないかなと思いました。いろいろ勉強させてもらいました。ありがとうございました。



### 【新田委員】

みなさん、発表お疲れさまです。私自身もNPO法人という立場で活動しています。まちづくり活動は、NPO法人、グループ、町会など色々な立場の方がかかわっています。活動を進める中で、人件費やコーディネート費にお金がつきにくいと課題を報告したグループがありました。NPO法人となったとしても、自主財源だけで、自立していくにはなかなか難しいと思います。

その意味では、まちの活性化といった視点に加え、地域の課題点、課題をどう解決していくのかといった視点が重要だと思います。「元気に!」という合言葉だけではなく、課題解決のための、新しい事業を考えることや、次のステップとして考えることも重要です。そのようなことを解決するために、助成金50万円の上限の中で自分達ができる活動は何なのかと考えて次回トライして欲しいです。私自身もまちづくり活動は、どこまで、何を、どういう覚悟でやっていけば良いのかなと考えさせられました。



### 【田熊委員】

みなさん、お疲れさまです。今日は辛口に質問させていただきましたが、基本的には皆さんのサポーターです。色々と相談していただければ対応しますので、その辺はご容赦ください。

活動を振り返ると、三回目のグループは安心して気が抜けたのかなという気がしましたが、継続して活動されると思いますので、頑張ってください。各団体との連携がうまくとれていないグループがあったような気がします。各団体はイベントがある時には必ず事務局へ連絡してください、そして事務局は各団体、審査会委員、賛助会員へ連絡するようにしてください。メーリングリストなども作ればなお良いのではないのでしょうか。助成団体の活動を地域に浸透させるためにも、助成対象となったグループを各出張所に知ってもらい、何かしらのサポートが出来る体制が必要なのではないかなと思いました。



NPO法人として活動されているグループは、千代田プロジェクト分については住み分けをしてください。できれば、情報発信しているホームページや予算書の中でも明らかにし、分かり易くするようにしてください。

【鈴木会長】

お疲れさまです。厳しい意見もあり、評価される意見もありましたが、考えてみれば、当たり前なのではないかと思えます。何故かという、このまちづくりサポートというのは、何か新しいことを始めようとする時に、その部分をサポートするというのが目的です。最初から成功することが分かっている助成する訳ではないので、当然のことながらうまくいく部分もあるし、うまくいかない部分もあるのです。長年審査をやると、ある年に厳しく言われると、翌年見違えるようなことになることがあります。言ったこと、言われたことに対して、反応(レスポンス)していくやりとりがあることが非常に重要なのです。審査員の方々もお気軽に意見を述べている訳ではないのです。事前に活動の状況を調べたり、もっとこういうことができれば良い、などと事前に話し合っ、審査会や発表会に臨んでいます。今日出た意見に対して、どうなんだろうかと自分なりにアプローチし、考え、さらにみなさんの活動を活発にしていきたいなと思えます。



「まちづくりって何なんだろう」といった意見が度々です。

まちづくりの言葉を広められた方の一人に、田村明さんという方がいます。先日、亡くなりましたが、生前いろいろお話を聞く機会がありました。まちづくりは、昔は都市計画という言葉を使っていました。これは、行政が一方的にやるといった、法律に縛られたものであり非常にかたいものでした。そこで、そうではない他の部分も取り入れたまちづくりも考えようと思いました。つまり、考え方を拡張していき、新しいことをどんどん取り込んでいくようになったのです。ここ数年の例でみると、福祉関係のことをテーマにしたり、千代田区で農業をやろうとしていることや、新しいことをやる人が増えつつあります。それは、ちょうどまちづくりを考える意味でも、少し風向きが変わり、多様に共生するテーマが出てきていることなのです。まちづくりって何だろうと定義してしまうと、難しくなりますが、今までなかったことにチャレンジしていく活動がまちづくりだということになれば、いろんな要素を取り入れるようになるでしょう。

最後に、一つ考えていただきたいのですが、地域に根ざすということが「千代田まちづくりサポート」なのです。あくまでも千代田をフィールドにして、オリジナルなものが展開されることに期待があるのだということをご認識してください。

千代田まちづくりサポートについて

「千代田まちづくりサポート」は、暮らしやすい環境づくりにつながる、みなさんのまちづくり活動に助成する事業です。この事業で交付される助成金は、当財団の賛助会員の方々の会費によって支えられています。

■助成対象となる活動

千代田区を中心とした市民レベルのまちづくり活動に助成します。ここで言うまちづくりとは「地域に元気をもたらし、コミュニティの活性化に貢献する活動」「現在、将来にわたって住みよい魅力的な都市環境づくりに貢献する活動」です。

■募集部門

【トライアル部門】：初めて応募するまちづくり活動に助成します。助成額は一律5万円です。

【一般部門】：初めて応募するグループおよび継続活動グループ(最長3年まで)に助成します。助成額は5万円～50万円

■助成審査

助成審査は申請グループからの提案発表および質疑にもとづき行われます。この審査は公開の場で行われます。

■報告会

助成対象グループは、中間発表会(11月頃)、活動成果発表会(3月頃)で活動内容を報告します。



一般部門の審査



トライアル部門の審査

## サポート大賞は「神田探偵団」

審査員と参加団体の投票により、サポート大賞が「神田探偵団」に贈られました。代表の立山さん(写真右)は神田をこよなく愛し、まち歩きのご案内役をしています。



これまで案内してきた町の魅力を『江戸下町神田町歩き』にまとめ、出版したことが高く評価されました。



## 修了証の授与

「NPO法人地図文化研究会」(写真左)「食育。街行く研究会」(写真中央)「C-bridge」(写真右)に修了証が授与されました。

修了証は三回にわたる助成を受け、ユニークな発想と実践活動がコミュニティの活性化に大きく貢献した活動の証として贈られます。これまで築き上げた独自の活動について、今後も引き続き展開されることを期待します。



## 審査会委員の退任

今年度をもって鈴木会長(写真右)が審査会委員を退任されることから、財団から感謝状、CSC(千代田まちづくりサポーターズクラブ)から花束が贈呈されました。

鈴木会長は、第7回、第8回を副会長として、第9回から第11回までを会長として、5年間にわたりまちサポの審査にご尽力くださいました。ありがとうございました。

今後とも、まちサポの活動に対して、引き続きご指導ご支援くださるようお願い申し上げます。





## 交流会

成果発表会終了後、CSC(千代田まちづくりサポーターズクラブ)主催の「交流会」が開催されました。

ここでは、発表会終了後のホッとしたなか、助成グループや審査会委員のみなさんが集まり、話足りなかった苦労話や、これからの構想や思いなどについて、語りあい、交流を深めました。



## (財)まちみらい千代田 賛助会員一覧 (敬称略)

2010年4月 現在

※本事業は、賛助会員の皆様の会費で運営されています。〈賛助会員募集中〉

【法人会員】		【個人会員】	
業種	会員名	業種	会員名
金融	興産信用金庫	広告代理	(株)フィレール
	大和証券(株) 本店営業部	IT関連	ウェブリオ(株)
	(株)東京都民銀行 神田支店		(株)メディアリンク
	(株)東日本銀行 飯田橋支店	コンサルタント	NPO法人都市住宅とまちづくり研究会
建築土木	みずほ信託銀行(株)		NPO法人マンション管理支援協議会
	大林道路(株) 関東支店	不動産	(株)共立エステート
	五洋建設(株)		(株)三菱総合研究所
	清水建設(株)		エヌティティ都市開発(株)
	(株)竹中工務店		住友不動産(株)
	中央建設(株)		プラットフォームサービス(株)
	(株)ナカノフドー建設		三井不動産(株)
前田建設工業(株)	三菱地所(株)		
建築設計	(株)アール・アイ・エー	その他	安田不動産(株)
	(株)ADプロジェクト		秋葉原商店街振興組合
	(株)関東設計		秋葉原中央通商店街振興組合
	(株)楠山設計		(株)イサミヤ
	(株)久保工		神田古書店連盟
	(社)東京都建築士事務所協会 千代田支部		東洋美術印刷(株)
	(株)都市環境計画研究所		フィールファイン(株)
	パシフィックコンサルタンツ(株)		富士ゼロックス(株)
	(株)ラウム計画設計研究所		ヨシモトポール(株)
緑花・環境	日産緑化(株)		
			青木孝次 塚越茂
			安孫子政夫 戸田豊重
			阿部武志 中川典子
			安藤岩三郎 二木憲一
			池俊郎 野間善治
			伊澤優 早川平典
			今川守 深川聡介
			浦田泉 藤本琢巳
			大塚茂 堀部剛正
			岡田貫伍 松島弓子
			角地登志子 三浦博子
			加藤武夫 三原久徳
			川崎侑孝 三輪瑛子
			北澤悦子 山崎泰廣
			後藤保路 渡邊和
			小林勝彦 他13名
			小林誠
			小山政士
			佐藤正幸
			須藤昭雄
			瀬川昌輝
			立山光昭
			田村崇彰

(法人:43 個人:51 計94)